



# 旭丘小だより

練馬区立旭丘小学校  
学校だより 10月号  
平成26年10月2日 発行  
発行責任者：野田 豊



## 心を一つに

校長 野田 豊

晴れ渡る秋空の下、旭丘小学校の運動会が行われました。今年のスローガンは「心は一つ！ 優勝をつかみとろう」でした。私は、開会式で子供たちに次のように呼びかけました。  
—「自分が演技するときは、全力を出し切って精一杯がんばり、他の学年の友達の演技には、大きな声で応援しよう。演技する人と演技を見る人の心が一つになるすばらしい運動会を作り上げましよう。」—

今回の運動会で繰り広げられた一つ一つの競技や演技は、どれも「心は一つ！」というスローガンがぴったり当てはまるすばらしいものでした。ここでは、紙面の都合上、各学年の表現の演技についてのみご紹介したいと思います。（他の演目は旭丘小ホームページで、順次紹介していきます。）

1・2年生は、「青空に向かって」です。肘から手首にかけてカラフルなアームネットを着け、全身でリズムをとりながら上下、左右に腕を曲げ伸ばしします。そして、その場でジャンプステップをしながら手拍子を打ったり、音楽に合わせて大股で歩きながら隊形移動したりと、一人一人の一生懸命さが健気でかわいらしく、目頭が熱くなりました。最後は、全員で大きな円を作り、空に突き上げた手を見上げる決めのポーズでフィナーレです。小さな1・2年生が大きくたくましく見える元気いっぱいダンスでした。

3・4年生は、手旗を持って踊る「ライジング サン」。手旗を斜めに振り下ろすたびにバサッ、バサッと小気味のよい風切音がします。誰の耳にもなじんだ軽快な曲に乗って、全員の手旗の動きと風音が一体となる心地よい演技が見事に表現されていました。一人一人の個性があふれ出たダンスになっていましたが、それでいて集団のまとまりの美しさを感じられたのです。きっと、それぞれがダンスの世界に浸り切って、ノリノリに踊っていたせいでしょう。個性豊かな3・4年生の子供たちの持ち味が存分に発揮されていました。

5・6年生は、「組体操2014 テイクオフ」。最初の見せ場は、トラックの2本の対角線上を駆け足で入場。2つの列が中央で見事に交差します。ほんのちょっぴりですが日本体育大学の集団行動をイメージさせました。一人技から二人、三人と人数を増やしながら易から難へと組立て技に挑戦していきます。本番というプレッシャーを追い風に変えて、次々と全チームが技を完成させていきました。クライマックスの3段タワーや大ピラミッドも余裕で作り上げ、全体を指揮した担任に「うまくいきすぎて、時間が余ってしまいました。」と言わせたほどです。退場する時、土で汚れた一人一人の顔に、やりきった手応えと深まった仲間との絆に喜びがこみ上げ、満面の笑顔がこぼれていました。

子供たちは、運動会を通して自分や友達のがんばりや成長をそれぞれに実感できたことと思います。そして、この経験は、自信や自己肯定感となって子供たちをさらに大きく育てていく肥やしになると思います。、私たち教職員は、保護者や地域の皆様とともに、「心を一つに」して一人一人の子供を見守り、励まし、はぐくんでいきたいと思っています。